

05～08年度 04年度以前	ドイツの音楽Ⅰ ドイツの音楽 a	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽（いわゆるクラシック音楽）をたくさんの録音資料（主にCD）で聴き、親しんでいただく授業です。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等について概観し、理解を深めていただきたいと思います。</p> <p>春学期には、中世から18世紀までに書かれた多様な音楽作品を取りあげます。普段耳にする機会の少ない作品も多いと思いますが、関心をもって耳を傾けていただければと思います。</p> <p>注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。楽譜を用いて解説することもありますので、予め了解しておいてください。</p>		<p>1回ずつテーマを定めてお話しします。以下のようなテーマでお話しすることを予定していますが、みなさんの関心や進捗等に応じて変更する場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、概観 2. 中世の音楽 3. 15～16世紀の声楽作品 4. シュッツとブクステフーデの声楽作品 5. 15～17世紀のオルガン音楽 6. 南ドイツのバロック音楽 7. J. S. バッハの生涯と器楽作品 8. バッハの声楽作品 9. ヘンデルの音楽（2009年が没後250周年です） 10. テレマンとベルリン楽派 11. 前古典派の音楽 12. ハイドンの音楽（2009年が没後200周年です） 13. W. A. モーツァルトの生涯と器楽作品 14. モーツァルトの声楽作品 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席状況（10回以上の出席が必要）および学期末試験の結果をもとに評価します。また、授業中に感想などを書いてもらいます。	

05～08年度 04年度以前	ドイツの音楽Ⅱ ドイツの音楽 b	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽をたくさんの録音資料で聴き、親しんでいただく授業です。</p> <p>秋学期には、18世紀終わり頃から現代に書かれた音楽を、主に作曲家とその作品という観点から取りあげます。そのなかで、作曲の背景、書法上の特徴、音楽様式の変遷等について概観し、理解を深めていただきたいと思います。秋学期の終わり頃には、ドイツ語圏の国歌や民謡等も扱う予定です。</p> <p>秋学期は、春学期の授業内容（18世紀までのドイツ語圏の音楽史および音楽用語等）を知っていることを前提に講義を行いますので、なるべく春学期から通年で履修してください。</p> <p>注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。楽譜を用いて解説することもありますので、予め了解しておいてください。</p>		<p>1回ずつテーマを定めてお話しします。以下のような作曲家等の作品を取りあげることを予定していますが、みなさんの関心や進捗等に応じて変更する場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ベートーヴェン（1） 2. ベートーヴェン（2） 3. シューベルト 4. メンデルスゾーン（2009年が生誕200周年です） 5. シューマン 6. リスト 7. ヴァーグナー 8. ブラームス 9. J. シュトラウスⅡ世とR. シュトラウス 10. ブルックナー、マーラー、新ウィーン楽派 11. 20世紀中葉以降のドイツ語圏の音楽 12. ドイツ語圏の国歌 13. ドイツ語圏のクリスマス音楽 14. ドイツ語圏の民謡、ポップス 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席状況（10回以上の出席が必要）および学期末試験の結果をもとに評価します。また、授業中に感想などを書いてもらいます。	